

魚病対策指導

堀江 康浩, 辻村 明夫, 畑下 成穂

昭和62年1月から12月までの病害検査状況は、アユ188件、アマゴ8件(IHN, 連鎖球菌症, キロドネラ症, 餌料性, その他), ニジマス3件(不明), コイ2件(穴あき病, アルグルス症), イワナ1件(不明)およびスッポン1件(過密)の計197件であった。

アユについての結果を表1に示した。ビブリオ病は、*Vibrio anguillarum* によるものが24件、*V. ordalii* によるものが4件、NAG-*Vibrio*によるものが4件の計32件で、前年と比べ増加した。連鎖球菌症は、57年に若干みられその後はなかったが、61年10月に1件みられ、本年は7件に増加した。病魚はすべて湖産(大きさ5~80g)であった。真菌症は、水カビ病が23件、真菌性肉芽腫症が9件、内臓真菌症が3件の計35件で前年の2倍以上に増加した。寄生虫疾病は、ギロダクテルス症が6件、グルゲア症が2件であった。餌料性は、35件で前年よりやや増加した。不明の中で著しい貧血症状を呈するものが2~7月と12月に16件あった。病魚はすべて湖産で、入池時の仔稚魚から30gサイズまでみられた。外観的には特に異常は認められないが、鰓、肝臓に血の気がなく退色し、また腎臓が腫大していた。発生水温は16~19°Cであった。

表1 アユの病害検査状況(件数)

病名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
ビブリオ病													
<i>V. anguillarum</i>													
血清型A型		1			1	2	6	8	3				21(8)
" C型		1	1		1								3(2)
<i>V. ordalii</i>	1					1	2						4(3)
NAG- <i>Vibrio</i>							3		1				4(3)
細菌性鰓病	1		2	2	1								6(3)
連鎖球菌症			1		1			2	1	1	1		7(4)
鰓ぐされ病								2	2		1		5(3)
エロモナス病	1							1					2(2)
真菌症	1	2	3	2	4	4	4	5	5	3	2		35(12)
寄生虫症病		1	1	1	1		1	1	2	1			9(6)
餌料性	7	6	6	2	5	2	2	3	3	1			37(15)
その他	2	4	3	3				2		1			15(8)
不明	1	3 <2>	11 <2>	4 <1>	4	2 <1>	1 <1>	2	3	1		9 <9>	40(16) <16><10>
計	14	17	28	14	18	11	19	26	20	8	3	10	188(25)

()内は経営対数, < >内は貧血症状を呈するもの

分離されたビブリオ病菌のスルファモノメントキシンとオキシリン酸に対する薬剤感受性およびその類別を表2, 3に示した。*V. anguillarum*のC型, *V. ordalii*, NAG-*Vibrio*についてはすべて両薬剤, あるいはどちらか一方の薬剤に対し高い感受性を示したが, *V. anguillarum*のA型については, 21株中18株がスルファモノメントキシシンに感受性を示さず, またオキシリン酸に対しても感受性が低く, 連鎖球菌症や真菌症と合併症を起こした経営体では少なからぬ被害があった。

魚病対策事業に係る防疫会議は, 8月30日(和歌山市)に, また防疫検討会は12月24日(紀北地域, 那賀郡桃山町)・25日(紀南地域, 田辺市)に開催した。魚病講習会は11月9日(那賀郡桃山町)に宮崎大学北尾忠利教授を招き開催した。魚病発生時の緊急対策として, 7月18日に養殖研究所病理部へNAG-*Vibrio*の同定を依頼した。養殖場の巡回指導は, 62年4月から63年3月まで51回(32経営体)実施し, また養殖場の観測は7ヶ所で, 水温・pH・DO・NH₄-N・NO₂-Nについて行った。種苗の魚病検査は, 表4に示したとおりで, ビブリオ病菌は海産(3・4月)は14件から2件, また湖産(1~9月, 12月)は47件から9件分離された。アユを対象とした医薬品残留検査は, 7月にオキシリン酸30検体について行い, いずれも残留は認められなかった。

表2 ビブリオ病の薬剤感受性

No.	月. 日	菌種	血清型	SMM	OA
1	1. 23	V o	A	卅	卅
2*	2. 10	V a	C	卅	卅
3	27	V a	A	卅	卅
4*	3. 17	V a	C	卅	卅
5	5. 6	V a	C	卅	卅
6	27	V a	A	—	卅
7*	6. 4	V a	A	—	卅
8	10	V a	A	—	卅
9	23	V o	A	卅	卅
10*	7. 1	V a	A	卅	+
11*	"	V a	A	—	卅
12	4	V o	A	卅	卅
13*	6	V a	A	—	卅
14*	10	NAG		卅	卅
15	12	NAG		卅	卅
16	20	NAG		卅	卅
17	22	V a	A	—	卅
18	24	V o	A	—	卅
19*	28	V a	A	—	卅
20	29	V a	A	—	卅
21	8. 6	V a	A	—	卅
22	7	V a	A	—	卅
23	10	V a	A	—	卅
24	"	V a	A	—	卅
25*	11	V a	A	—	卅
26*	18	V a	A	—	卅
27	25	V a	A	—	卅
28	27	V a	A	—	+
29	9. 7	V a	A	—	卅
30	12	V a	A	—	卅
31*	18	NAG		—	卅
32	24	V a	A	—	卅

* 池入れ時

V a : *V. anguillarum*, V o : *V. ordalii*

NAG : NAG - *Vibrio*

表3 感受性の類別 (菌株数)

薬	剤	V a		V o	NAG
		血清型			
SMM	OA	A	C		
卅	卅	1	3	3	3
卅	+	1			
—	卅	1		1	1
—	卅	17			
—	+	1			

V a : *V. anguillarum*, V o : *V. ordalii*

NAG : NAG - *Vibrio*

表4 種苗の魚病検査 (件数)

月	海産	湖産	計
1		2	2
2	4 (1)	7	11 (1)
3	6 (1)	7	13 (1)
4		3	3
5		3	3
6		7 (1)	7 (1)
7		10 (5)	10 (5)
8		3 (2)	3 (2)
9		1 (1)	1 (1)
10			
11			
12		4	4
計	10 (2)	47 (9)	57 (11)

() 内は分離された件数